

平成30年度

田主丸町 中小企業景況調査報告

田主丸町商工会

〇はじめに

平成29年3月に「経営発達支援計画」の認定を受けた。その中の1番目に「地域の経済動向調査に関すること」があり、田主丸町における地域経済動向調査の実施が含まれている。田主丸町を竹野・水縄校区を主とした耳納北麗エリアと田主丸・川会・柴刈・船越・水分校区を主とした中心部エリアに分類し、それぞれのエリアの「小売業・飲食業・サービス業」の事業所に調査を依頼した。「建設業・卸売業・製造業」では、エリアによって需要動向が異なることはないため、エリアを分類せずに町内の事業所に調査を依頼した。

行政、他団体が提供するデータでは、田主丸町に特化したデータを得ることが難しいため、町内の地域経済の動向を把握し、県や市と地域内における事業者との景況感等の比較を行い、利点や課題を明確にすることで今後の町内における事業計画、販売計画等の立案に活用することを目的としている。

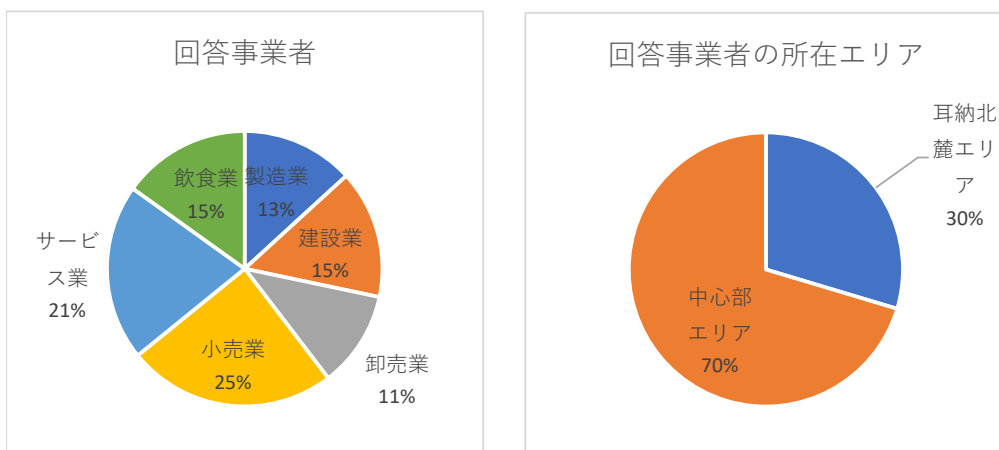
〇調査の実施概要

調査の対象	田主丸町商工会に所属する事業者(業種・エリア別に5事業所以上)の売上高・資金繰り・採算・設備投資・業況・問題点について		
実施期間	平成30年10月		
有効サンプル数	54社	(小売業者 13社、飲食業者 9社、サービス業者 11社 建設業者 8社、製造業者 7社、卸売業者 6社)	
分析・集計	職員によるアンケートの実施と回収を行い、中小企業診断士の指導のもとに職員が集計から分析・作成までを行った。		

○報告書の主な内容

- | | |
|----------------------|------|
| 1. アンケート回答事業者の属性について | 1 項 |
| 2. 『業況』について | 1 項 |
| 3. 『売上高』について | 3 項 |
| 4. 『資金繰り』について | 5 項 |
| 5. 『採算(経常利益)』について | 7 項 |
| 6. 『従業員過不足』について | 9 項 |
| 7. 『設備投資』について | 10 項 |
| 8. 経営上の問題点について | 14 項 |

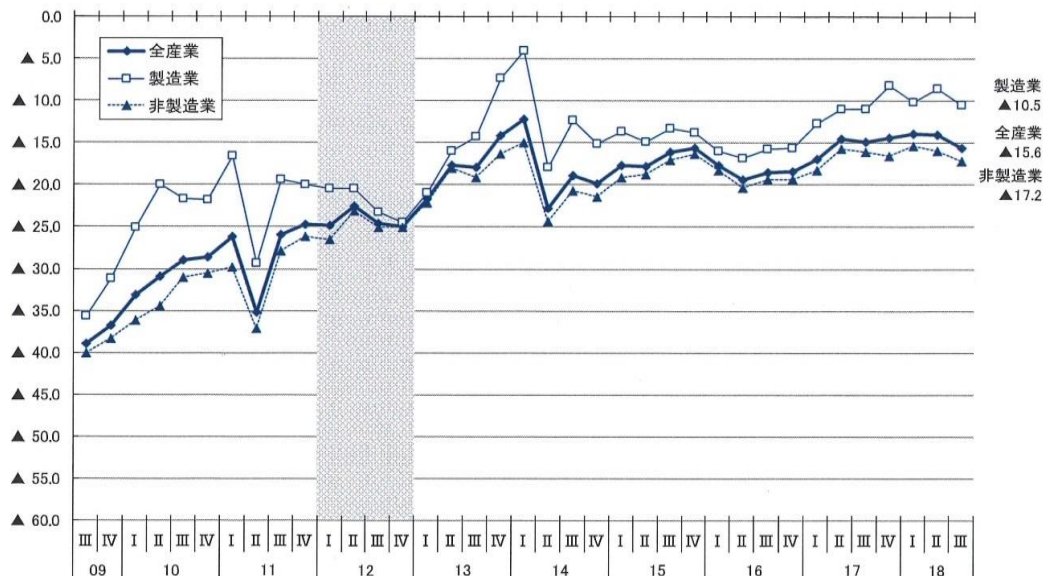
1. アンケート回答事業者の属性について



- ・今回の景況調査に回答を頂いた事業者は54社であった。
- ・その中で業種別で見ると、小売業 25%、飲食業 15%、サービス業 21%、卸売業 11%、建設業 15%、製造業13%の構成となっている。
- ・エリア別で見ると、耳納北麓エリアの事業者が30%、中心部エリアが70%の内訳となっている。

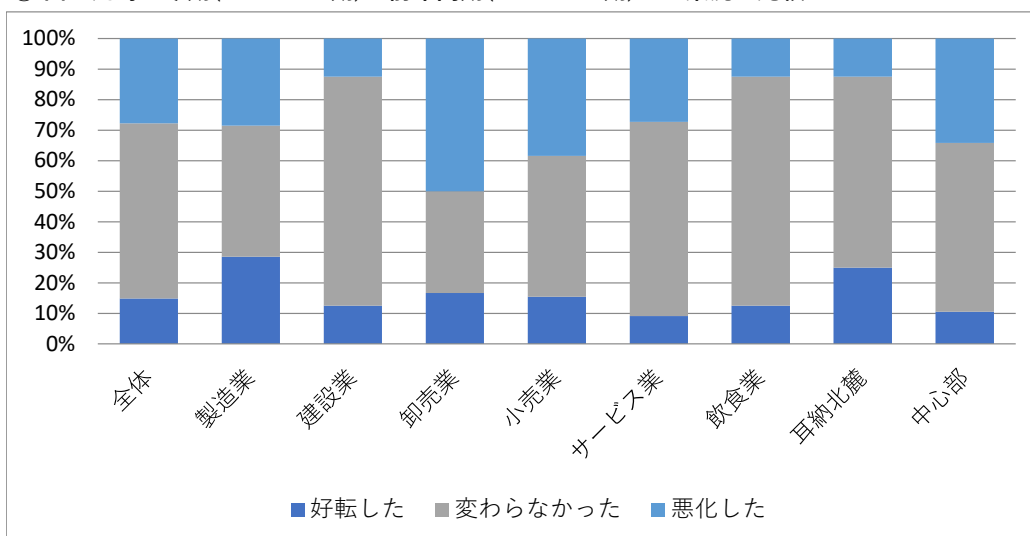
2. 『業況』について

① 全国の業況判断の推移



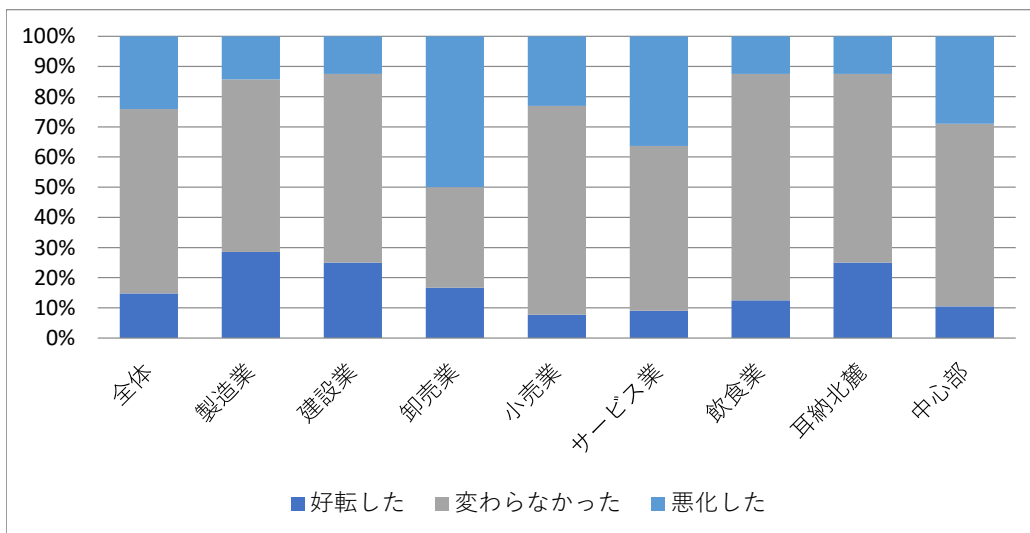
- ・全国の業況判断では、2018年第2・第3四半期（4月～9月）は前年同期比で製造業の業況は改善傾向にある。一方で、非製造業を見ると悪化傾向である。
- ・前期となる2017年第4四半期・2018年第1四半期（10月～3月）と比較すると製造業・非製造業ともやや悪化傾向にある。
- ・2016年第2四半期を底として継続して改善傾向を維持してきたが2018年7月～9月期においてやや悪化傾向が見られる。

② 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前年同期(H29.4～9期)との業況の比較



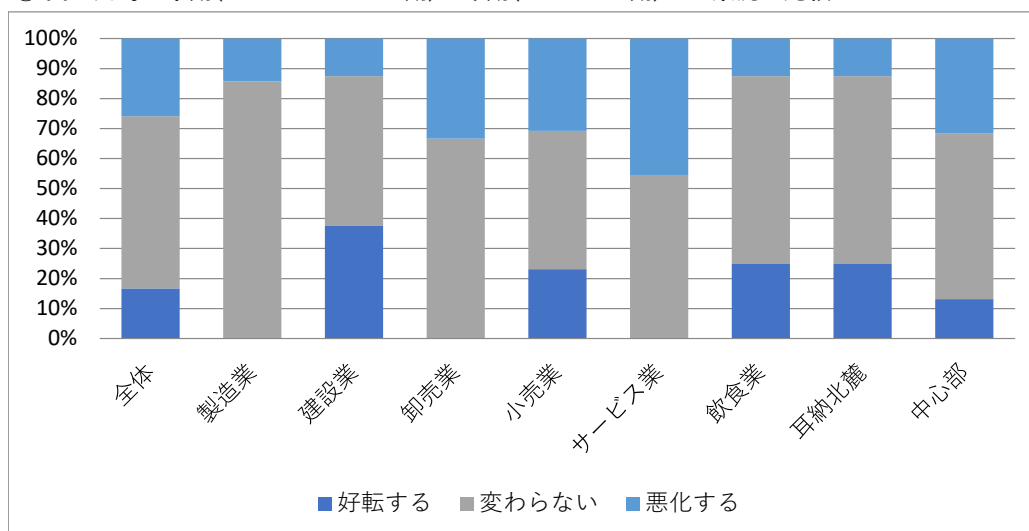
- ・田主丸町では、昨年同期と比較して変わらないという回答が多かったが、卸売業では半数が悪化したとの回答であり、小売業でも40%が悪化したとの回答である。
- ・また、製造業においては好転したと悪化したの割合がほぼ同じという回答結果が出た。
- ・エリア別で見ると、耳納北麓では改善傾向、中心部の方が悪化傾向の割合が多い。
- ・全国的なデータと比較すると製造業では回復傾向であり、非製造業では悪化傾向であることより、町内の業況と類似している。

③ 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前期(H29.10～H29.3期)との業況の比較



- ・田主丸町では全体的には、悪化したが悪転したを上回っており、悪化傾向である。
- ・業種別では、前年同期、前期比において卸売業が50%が悪化したとの回答で悪化傾向にある。
- ・一方で、製造業・建設業は好転したとの回答が多く回復傾向にある。
- ・エリア別で見ると、耳納北麓では約25%が好転したとの回答であり、中心部においては、35%が悪化したとの回答で悪化傾向の割合が高くなっている。
- ・全国的なデータでは、全体的にやや悪化傾向であり、町内の全体の業況についても悪化傾向である。

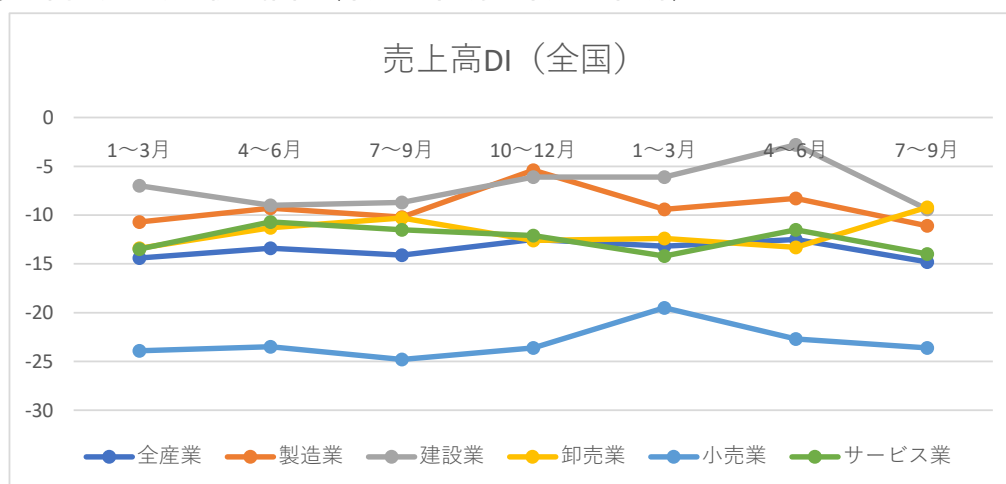
④ 田主丸町の来期(H30.10～H31.3期)と今期(H30.4～9期)との業況の比較



- ・田主丸町では、来期の見通しとして好転するが約20%、悪化するが約25%と回答で悪化傾向にある。
- ・業種別では、建設業においては、好転するの割合が40%と高くなっている。小売業・飲食業においても好転するの回答が得られたが、サービス業においては悪化するとの見込みが約50%と多く悪化傾向にある。
- ・エリア別では、耳納北麓では好転するとの見込みが25%となっているが、中心部エリアでは悪化する見込みが30%以上となっており、耳納北麓エリアは回復を見込んでいる事業者が多い。

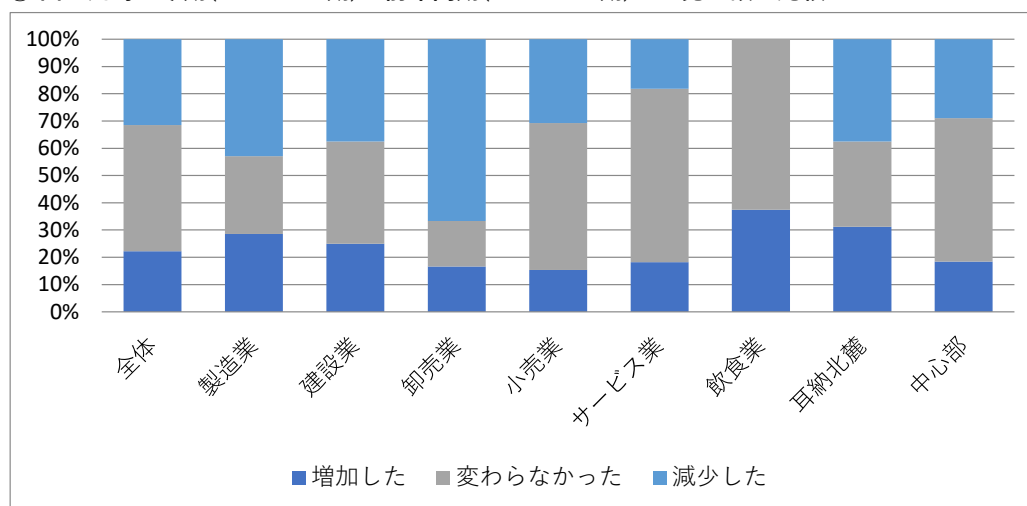
3. 『売上高』について

① 全国の売上額DI値の推移（平成29年1月～平成30年9月）



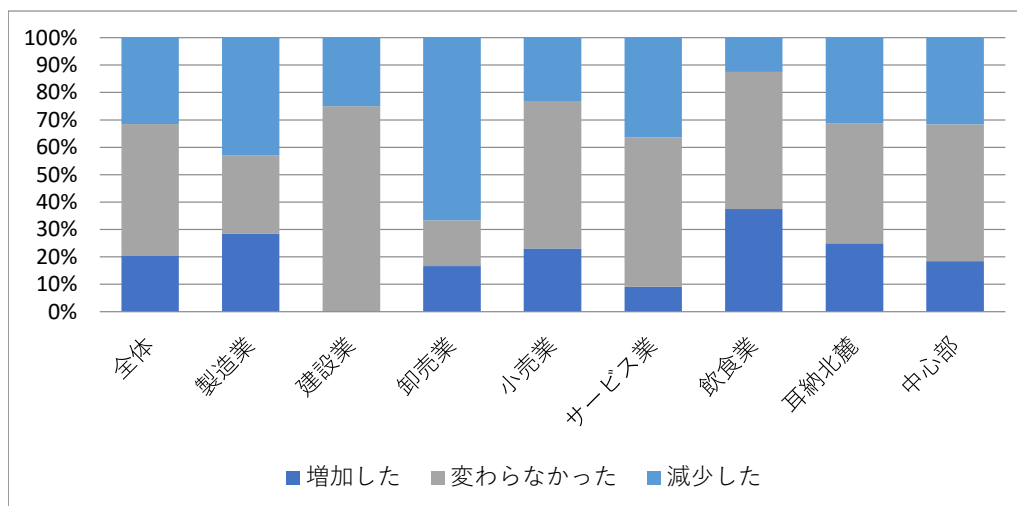
- ・全国の売上高について前年同期比で横ばいであり、前期比で悪化している。
- ・製造業は前年同期比、前期比ともに悪化している。
- ・建設業は前年同期比で横ばい、前期比で悪化している。
- ・卸売業では前年同期比、前期比ともに改善傾向にある。
- ・小売業では前年同期比ではやや改善したが前期比では悪化となっている。
- ・サービス業では前年同期比、前期比とも悪化傾向にある。

② 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前年同期(H29.4～9期)との売上額の比較



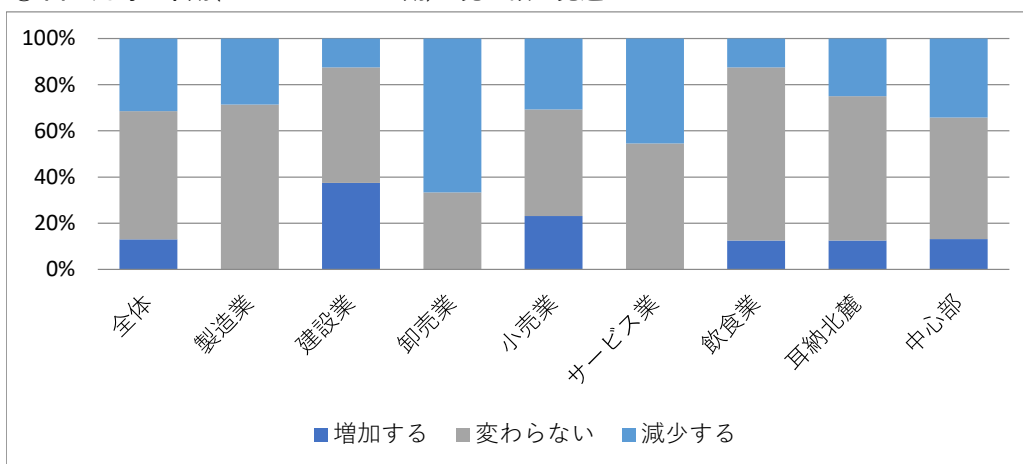
- ・田主丸町では、前年同期比売上は、増加したは20%、減少したは30%と悪化傾向にある。
- ・業種別では、飲食業が約40%増加したとなっているほか、製造業・建設業でも約30%が増加したとなっている。一方卸売業においては70%が減少となっている。
- ・エリア別にみると、耳納北麓では増加したが30%、減少したが40%となっており悪化傾向になっている。中心部でも同じようなことがいえる。
- ・全国的なデータと比較すると、サービス業は悪化傾向にあるが、町内のサービス業・飲食業は横ばい・増加したと回復傾向にある点で違いが見られる。

③ 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前期(H29.10～H30.3期)との売上額の比較



- ・田主丸町では、前期比売上は、前年同期比同様悪化傾向にある。
- ・業種別では、卸売業が70%が減少したとなっている。建設業においては80%が変わらなかった飲食業以外の業種で悪化傾向となっている。
- ・エリア別では、両エリアとも増加したが約20%、減少したが約30%となっている。
- ・全国的なデータと比較すると、卸売業は増加傾向にあるが、町内では減少が多くみられる。サービス業では横ばい傾向がみられるが、町内の飲食業は増加傾向にある。

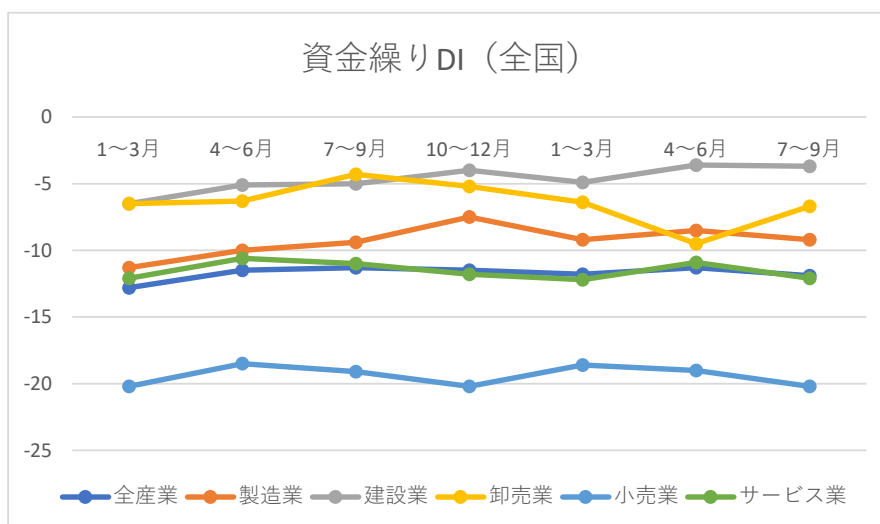
④ 田主丸町の来期(H30.10～H31.3期)の売上額の見通し



- ・田主丸町全体では、増加するは約10%、減少するは約30%と見通しも悪化傾向にある。
- ・業種別では、建設業が増加するが約40%、減少するが約10%で改善傾向にある。
一方、卸売業では約60%がサービス業では約40%が減少する見通しである。
- ・エリア別では、両エリアとも減少するが約30%となっており、増加するを上回っている。
- ・飲食業は、前年同期比及び前期比では、増加傾向であったが今後の見通しは、横ばいであると感じている。

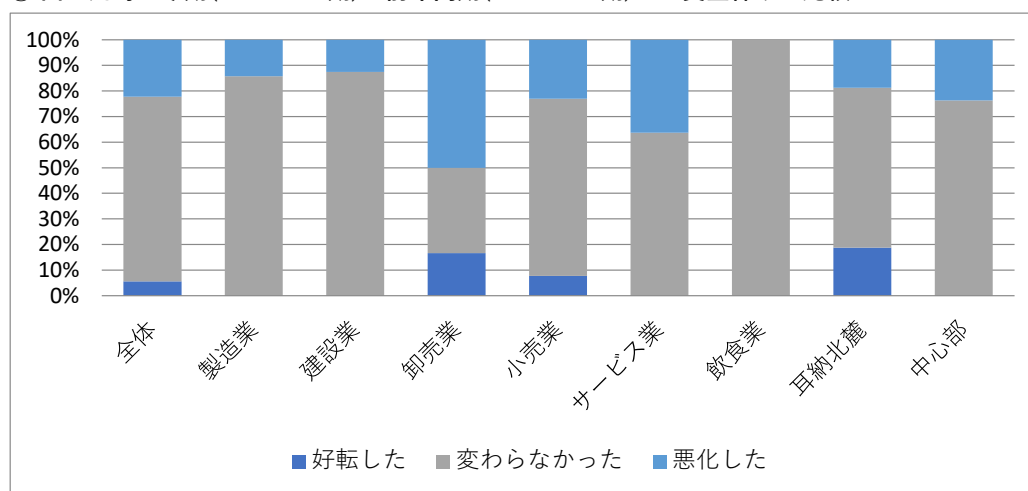
4. 『資金繰り』について

① 全国の資金繰りDI値の推移（平成29年1月～平成30年9月）



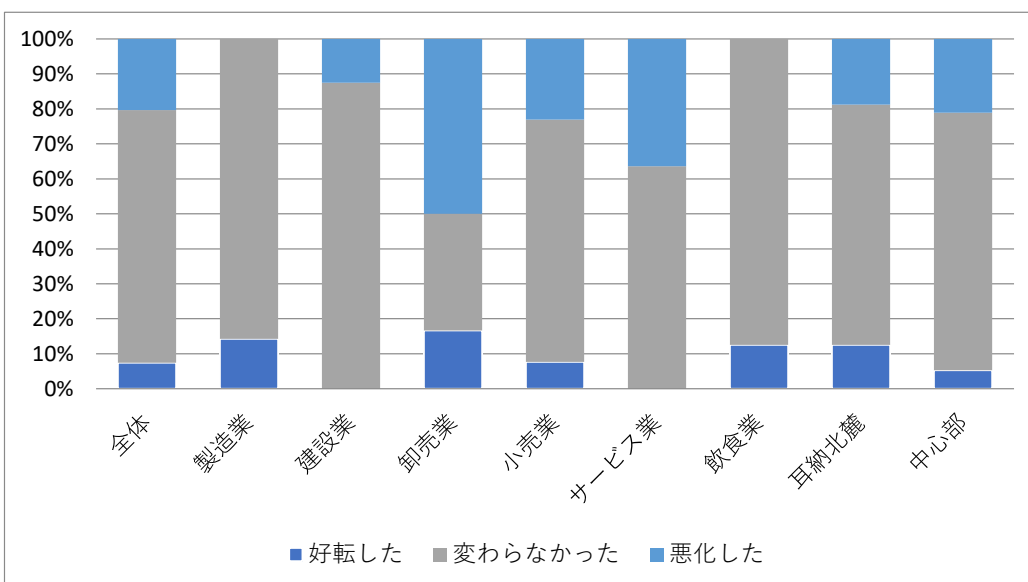
- ・全国の資金繰りについて前年同期比では改善し、前年比では横ばいである。
- ・業種別でみると、建設業は緩やかな改善傾向を示しており、卸売業は前期比に比べ大幅な改善を示している。ただし、製造業、小売業、サービス業は、全体的には横ばいであるが、7月-9月期において4月-6月期よりもやや悪化傾向が見られる。

② 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前年同期(H29.4～9期)との資金繰りの比較



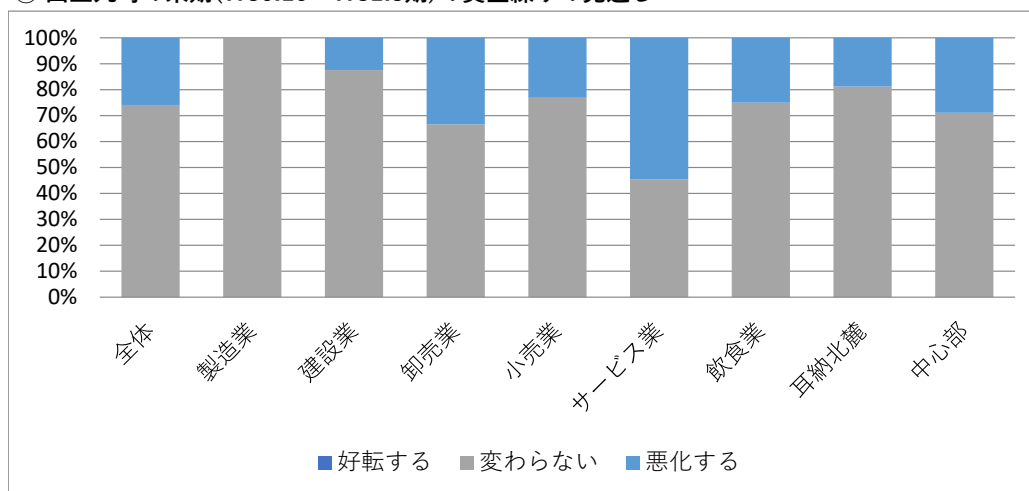
- ・田主丸町全体では、悪化傾向にある。
- ・業種別においても、飲食業は横ばいであるが、その他の業種については悪化傾向である。
- ・エリア別では、耳納北麓では好転した・悪化した各20%となっており、横ばい状況である。
中心部では悪化したとの回答が多く、中心部のほうが悪化傾向にある。
- ・全国的なデータと比較すると、全体的に横ばいもしくは改善傾向であるが、町内では悪化傾向にある結果となっている。

③ 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前期(H29.10～H30.3期)との資金繰りの比較



- ・田主丸町全体では、好転した約5%、悪化した約20%と、前年同期比と同じ悪化傾向である。
- ・業種別で見ても、前年同期と同様に、ほとんどの業種が悪化傾向になっている。
しかし、製造業においては、好転したが約18%で改善傾向にみられる。
- ・エリア別では、両エリアとも悪化した各20%となっている。
- ・全国的なデータと比較すると前年同期比と同様に横ばい・改善傾向にあるが、
町内では悪化傾向にある。

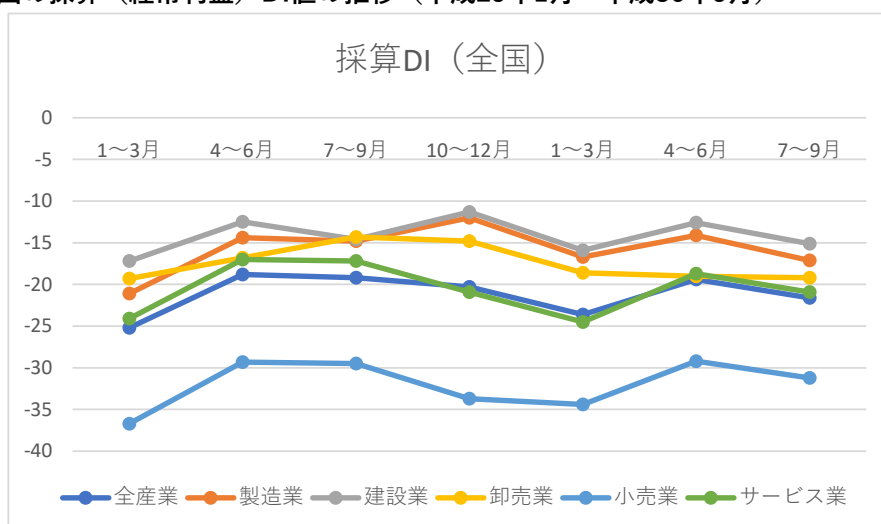
④ 田主丸町の来期(H30.10～H31.3期)の資金繰りの見通し



- ・田主丸町全体では、約80%が変わらないとの見通しをしている。
- ・業種別にみると、サービス業が約55%が悪化すると見通しをしている。一方好転するは0%になっている。
- ・エリア別にみても、両エリアとも約20%が悪化するになっている。

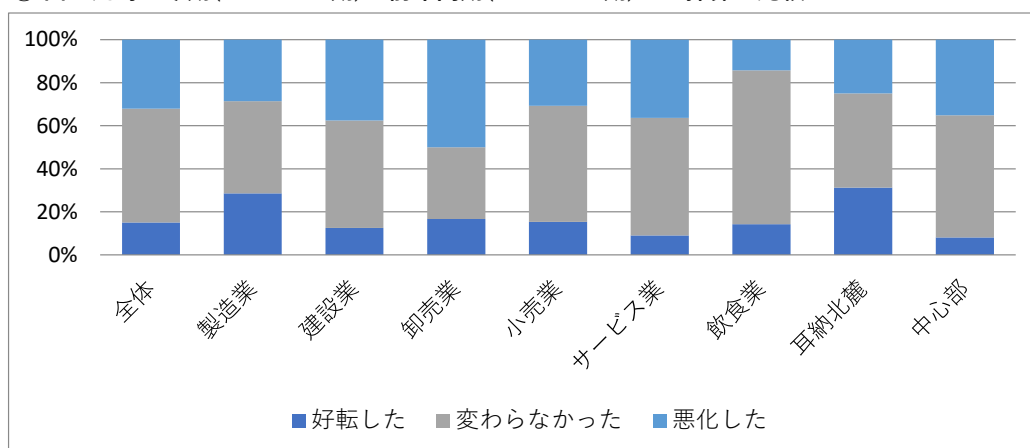
5. 『採算(経常利益)』について

① 全国の採算(経常利益)DI値の推移(平成29年1月～平成30年9月)



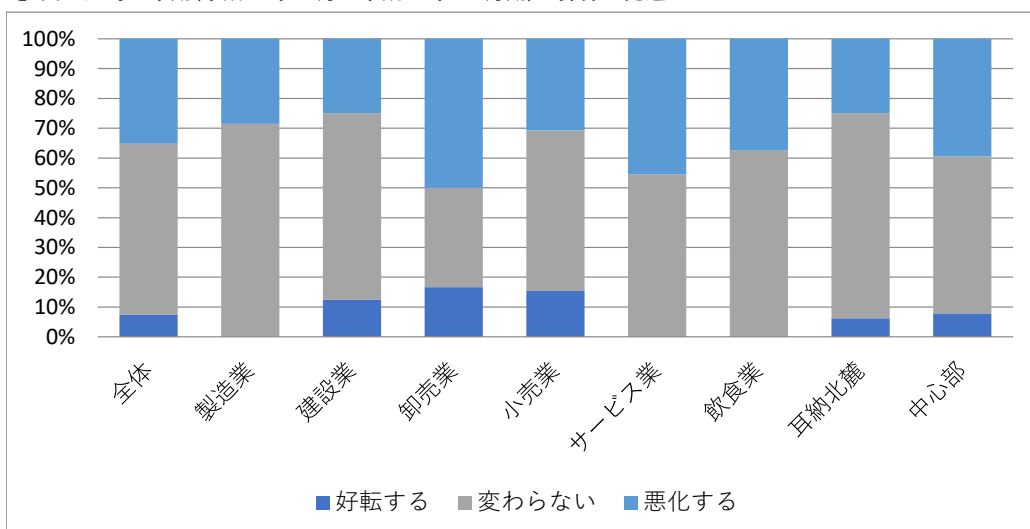
- ・全産業の採算について前年同期比及び前期比をみても悪化している。
- ・製造業は、前年同期比でやや悪化しており、前期比では悪化している。
- ・建設業は、前年同期比では横ばいであるが、前期比ではやや悪化している。
- ・卸売業は、前年同期比では悪化しており、前期比では横ばいである。
- ・小売業は、前年同期比で横ばいであり、前期比ではやや悪化している。
- ・サービス業は、前年同期比、前期比ともにやや悪化している。

② 田主丸町の今期(H30.4～9期)と前年同期(H29.4～9期)との採算の比較



- ・ 田主丸町全体では、好転したが約20%、悪化したのが約30%となっており悪化傾向である。
- ・ 業種別では、製造業が約30%が好転したとなっている。卸売業においては約50%が悪化したとなっている。
- ・ エリア別では、耳納北麓が好転したが約30%となっており、中心部では約40%が悪化したとなっている。
- ・ 全国的なデータと比較すると、建設業では横ばいであるが、町内では悪化傾向が見受けられる。

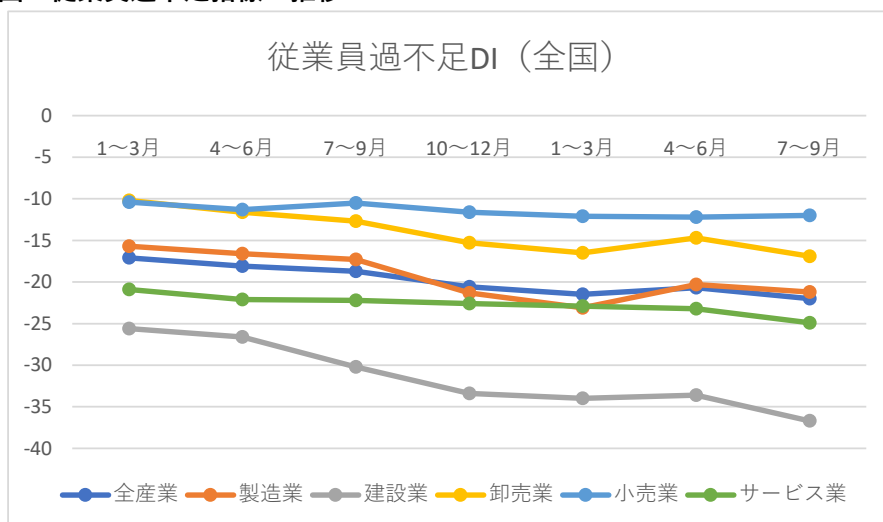
② 田主丸町の来期(平成30年10月～平成31年～3月期)の採算の見通し



- ・ 田主丸町全体では、好転するが約5%、悪化するが約40%となっている。
- ・ 業種別では、好転すると回答した業種が、建設・卸売・小売業となっている。また卸売業においては、悪化するが約50%となっている。
- ・ エリア別では、中心部が約40%が悪化するとなっている。耳納北麓でも約25%が悪化するとなっている。

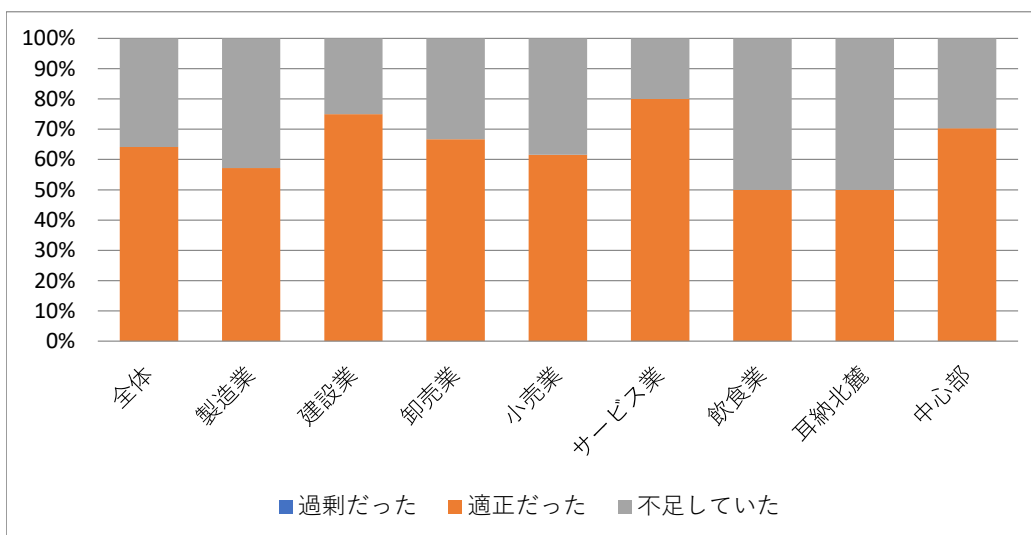
6. 『従業員過不足DI』

① 全国の従業員過不足指標の推移



- ・ 全国の従業員過不足DIについてみると、全産業では前年同期比、前期比で不足している。
- ・ 業種別で見ると、小売業はかろうじて横ばいを保っているが他の業種では前年同期前期とも比較して不足が拡大していることがわかり、特に建設業の不足の拡大が顕著にみられる。

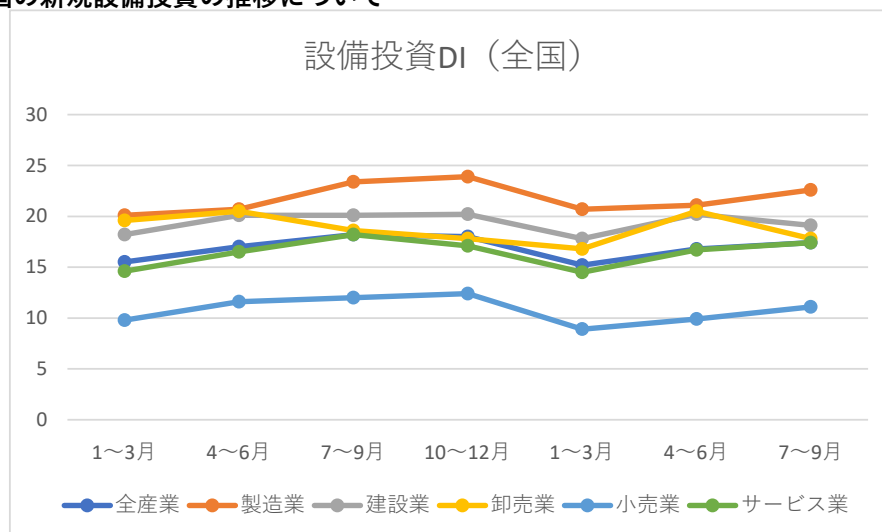
② 田主丸町の今期(平成30年4月～9月)の従業員数



- ・ 田主丸町全体では、約60%が適正であり、約40%が不足していた。
- ・ 業種別では、飲食業が約50%、製造業・小売業が約40%が不足しているとの回答であり、従業員の不足を感じている主な業種である。
- ・ エリア別では、耳納北麓が約50%が不足である。
- ・ 全国的なデータと比較しても、従業員が不足傾向にあり、町内でも同様であるが、建設業では、全国よりも従業員の不足は見受けられない。

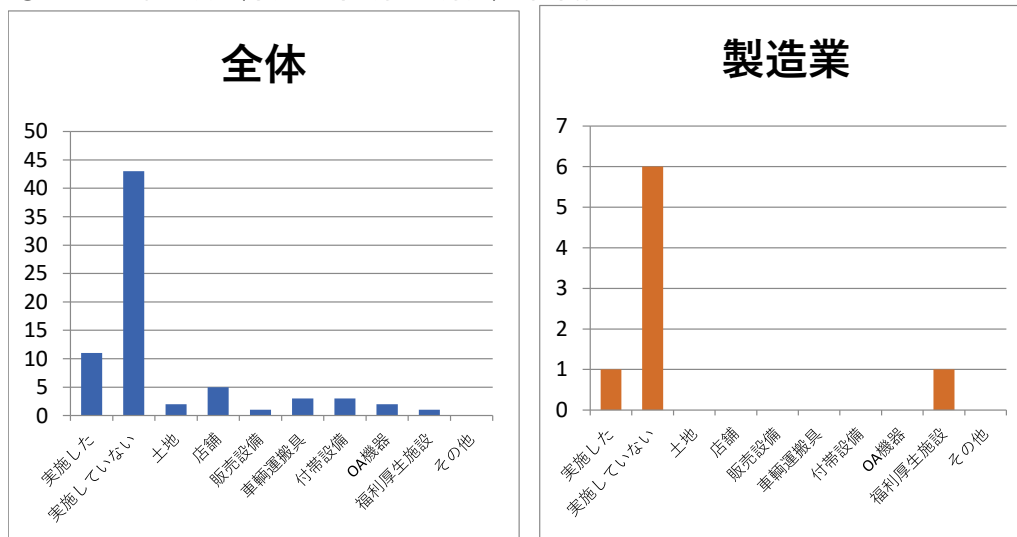
7、『設備投資』

① 全国の新規設備投資の推移について

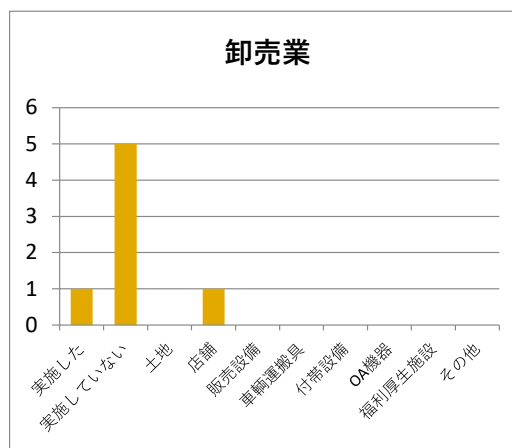
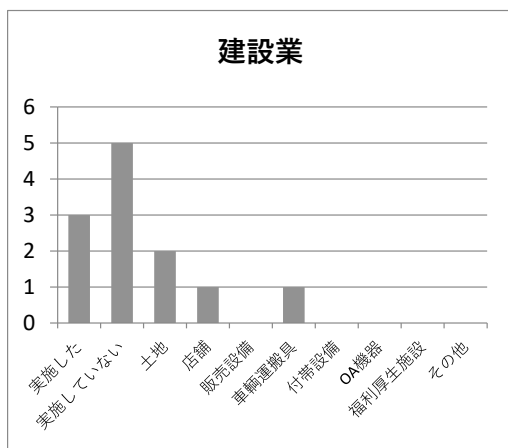


- ・ 全国の事業者の設備投資DIは前年同期期比でみると全産業では横ばいを示している。
- ・ 業種別では、製造業・小売業・サービス業は2018年1月～3月を起点に拡大傾向にある。
- 一方で、建設業・卸売業は前期比（2018年4月～6月）でみると減退気味と言える。

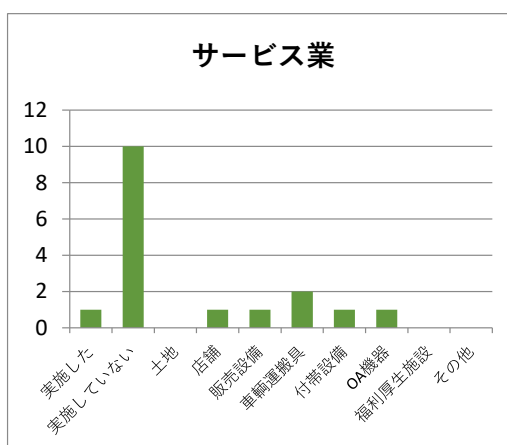
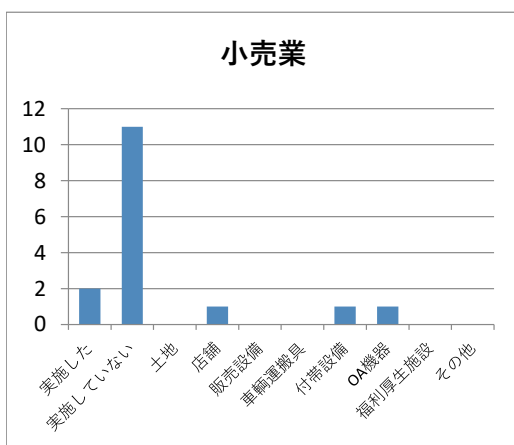
② 田主丸町の今期(平成30年4月～9月期)の設備投資



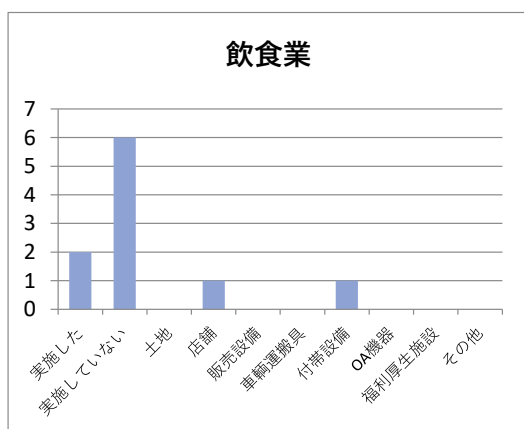
- ・ 田主丸町全体では、54社中11社が実施しており約20%となっている。
- 全国的なデータと比較すると同水準であるといえる。
- ・ 設備投資の内訳は、店舗、車両運搬具、付帯設備、OA機器が主となっている。
- ・ 業種別にみると、製造業においては、1社で福利厚生施設の設備投資が行われている。



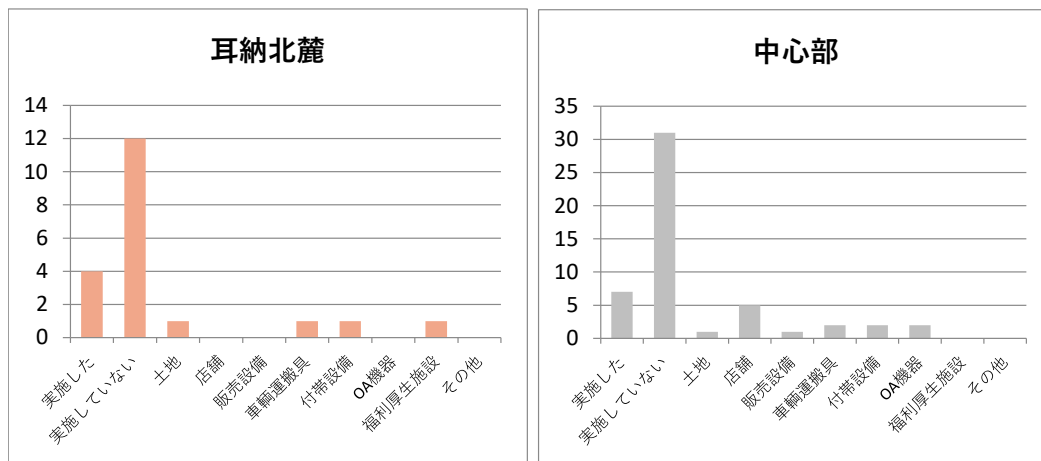
- ・建設業においては、3社で土地の取得2件、店舗1件・車両1件の取得となっている。
- ・卸売業においては、1社で店舗の取得である。
- ・全国的なデータを見ると、建設業については全国より高い水準であり、一方で卸売業は低い水準となっている。



- ・小売業においては、2社で店舗・付帯施設・OA機器の取得となっている。
- ・サービス業においては、1社であるが、店舗・販売設備・車両等の多くの取得を行っている。
- ・全国なデータと比較すると、小売業・サービス業ともに低い水準である。

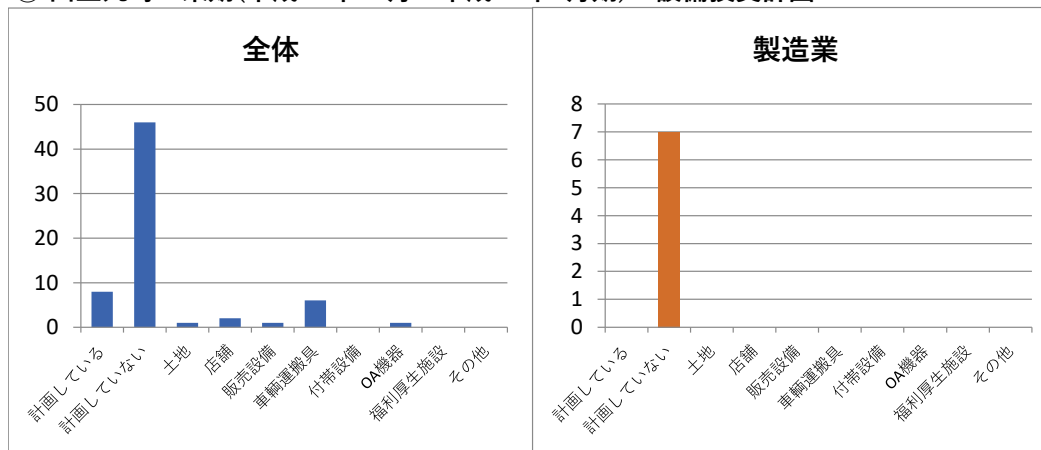


- ・飲食業においては、2社で店舗・付帯施設の取得となっている。
- ・飲食業においては、2社で店舗・付帯施設の取得

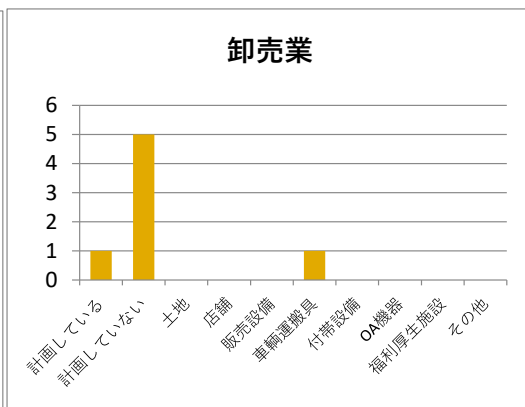
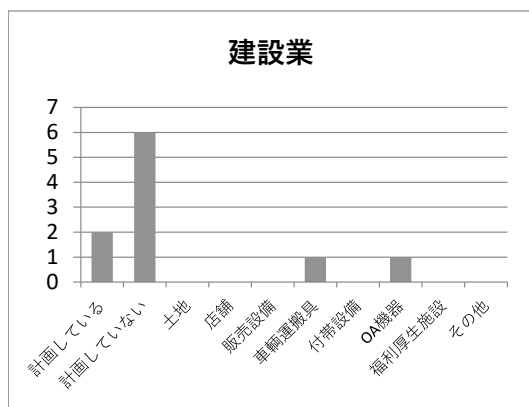


- ・エリア別で見ると、耳納北麓で4社、中心部で7社で設備投資が実施されている。
割合で見ると、耳納北麓が25%、中心部が約18%と耳納北麓のほうが設備投資を行っている。
- ・内訳では、耳納北麓では土地、車両、付帯施設、福利厚生施設となっている。中心部では店舗の設備投資が一番多い。

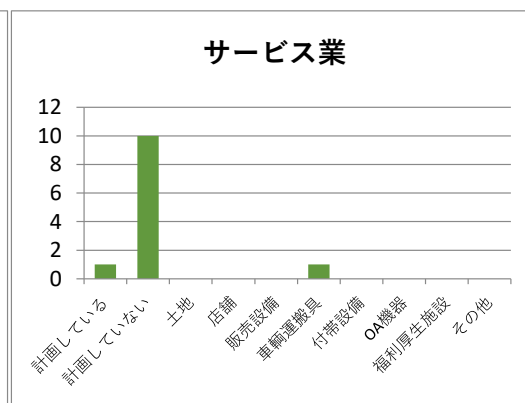
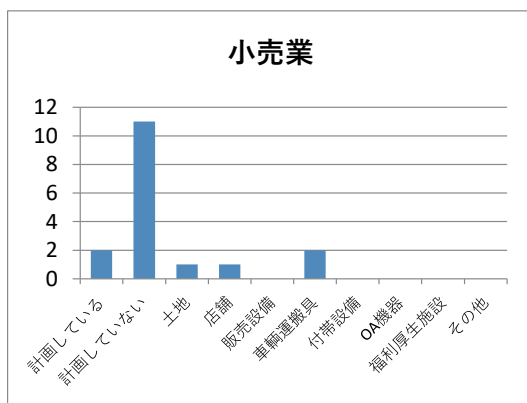
③ 田主丸町の来期(平成30年10月～平成31年3月期)の設備投資計画



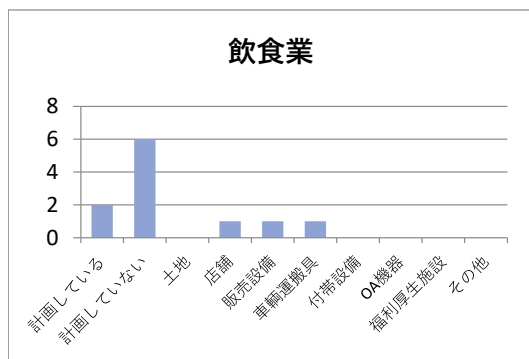
- ・田主丸町全体では、計画している8社、計画していない46社となっており、約14%が設備投資を計画している。
- ・内訳では、車両と店舗である。
- ・今期と比べると、全体で約20%が設備投資を行っており、来期の計画は消極的である。
- ・製造業においては、全社とも計画してない。



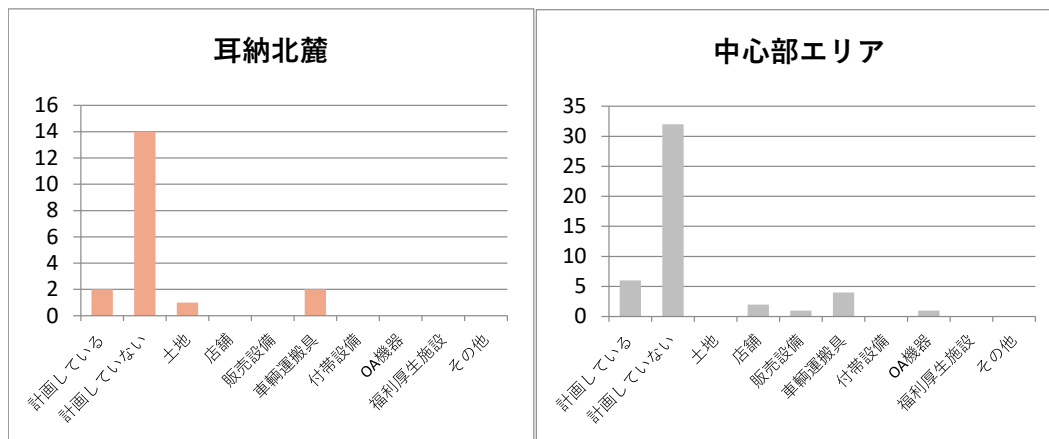
- ・建設業においては、2社が車両と、OA機器の取得を計画している。
- ・卸売業においては、1社が車両取得を計画している。
- ・建設業、卸売業ともに今季と比較すると消極的である。



- ・小売業では、2社が土地、店舗、車両の取得を計画している。
- ・サービス業では、1社が車両の取得を計画している。
- ・小売業、サービス業ともに今季と比較すると消極的である。



- ・飲食業では、2社が店舗、販売施設、車両の取得を計画している。
- ・今期の設備投資と比較すると、同様の水準で計画を行っている。



- ・エリア別では、耳納山麓が3社、中心部が5社計画をしている。
- ・内訳は、両エリアとも車両の取得である。

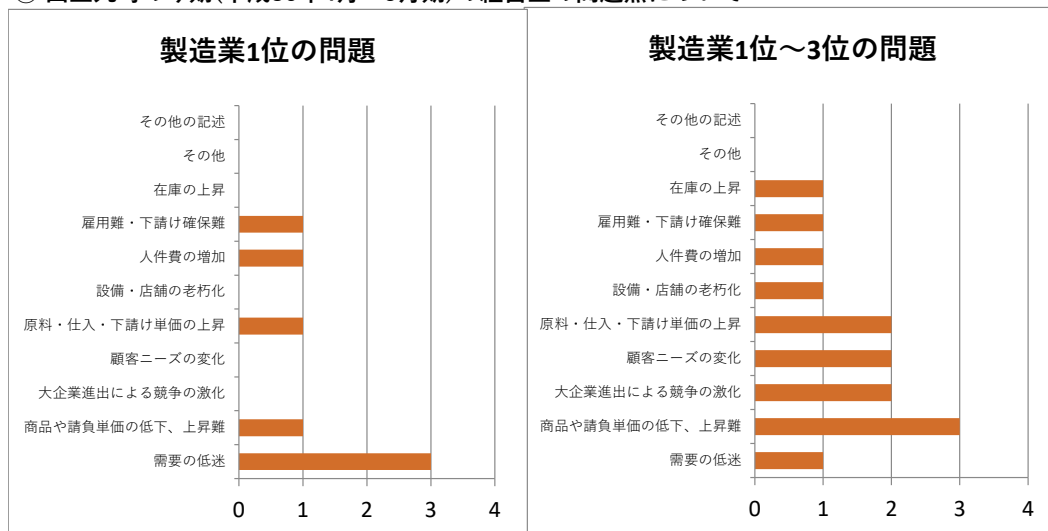
8. 経営上の問題点について

① 全国の今期(平成30年4月～9月期)の経営上の問題点について

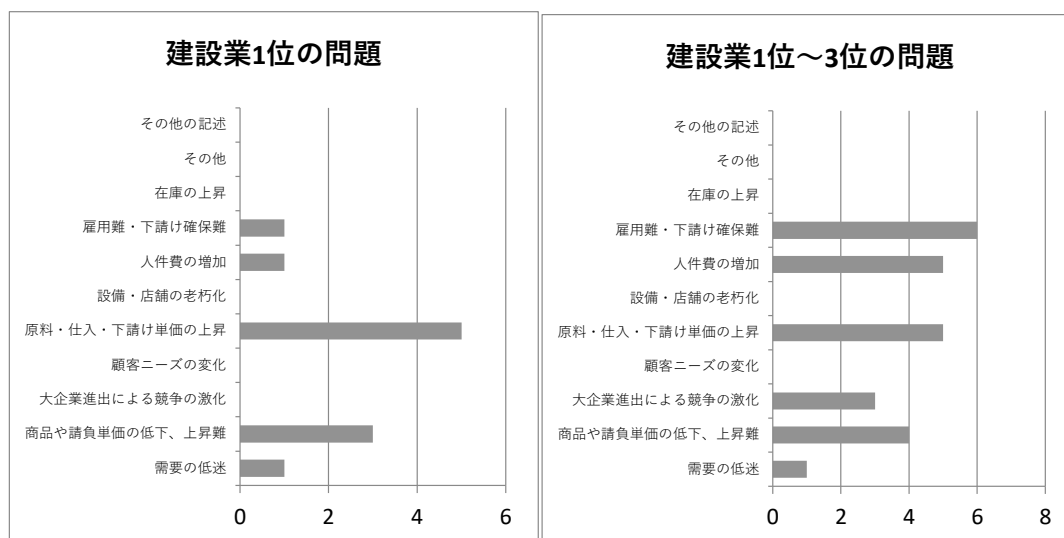
	今期直面している経営上の問題点(構成比)									
	1位(%)		2位(%)		3位(%)		4位(%)		5位(%)	
製造業	需要の停滞		原材料価格の上昇		従業員の確保難		生産設備の不足・老朽化		製品ニーズの変化への対応	
	19.3		13.3		13.3		12.5		10.6	
	1位	19.3	2位	14.7	3位	13.6	4位	12.3	5位	10.6
建設業	従業員の確保難		官公需要の停滞		熟練技術者の確保難		民間需要の停滞		材料価格の上昇	
	23.2		13.7		11.8		10.0		9.3	
	1位	22.0	2位	15.9	3位	11.0	4位	10.2	5位	9.2
卸売業	需要の停滞		仕入単価の上昇		従業員の確保難		大企業の進出による競争の激化		販売単価の低下・上昇難	
	27.6		13.7		10.3		6.9		6.7	
	1位	29.2	2位	12.2	3位	11.2	5位	7.5	4位	7.6
小売業	大・中型店の進出による競争の激化		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		購買力の他地域への流出		仕入単価の上昇	
	16.2		16.1		15.9		15.1		6.4	
	1位	16.9	3位	15.0	2位	16.2	4位	14.9	5位	7.7
サービス業	利用者ニーズの変化への対応		需要の停滞		従業員の確保難		店舗施設の狭隘・老朽化		材料等仕入単価の上昇	
	18.7		14.7		14.4		9.3		8.1	
	1位	18.9	2位	14.5	3位	13.6	4位	9.1	5位	8.9
前々期	1位	18.8	2位	15.8	3位	13.8	4位	9.1	5位	8.2

- ・製造業・卸売業は、需要の停滞や原材料価格・仕入れ価格の上昇が問題点の1位、2位を占め小売業は需要の停滞と共に、大・中型店の進出による競争力の激化、消費者ニーズの変化への対応など競争力強化の問題が見られる。
- ・サービス業は需要の停滞、従業員の確保難とともに、利用者ニーズの変化への対応が大きな問題点として浮上している。
- ・建設業は、官公需要の停滞に加え、従業員の確保難、熟練技術者の確保難など人材に関することが大きな問題点となっている。

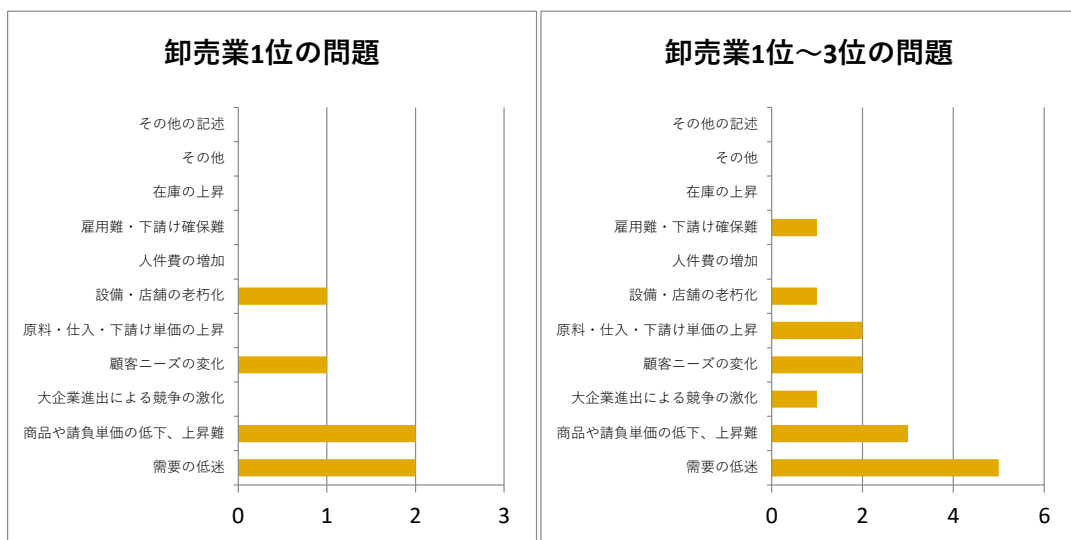
② 田主丸町の今期(平成30年4月～9月期)の経営上の問題点について



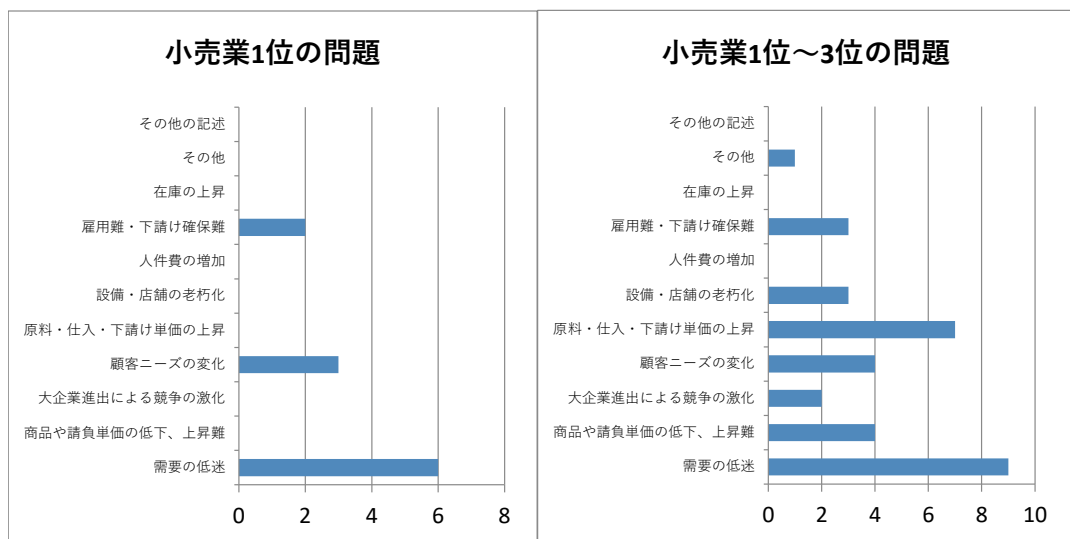
- ・ 製造業においては、需要の低迷が第1位となっており、今後原材料の価格の上昇また、雇用・下請け確保難など全国と同様の問題点となっている。



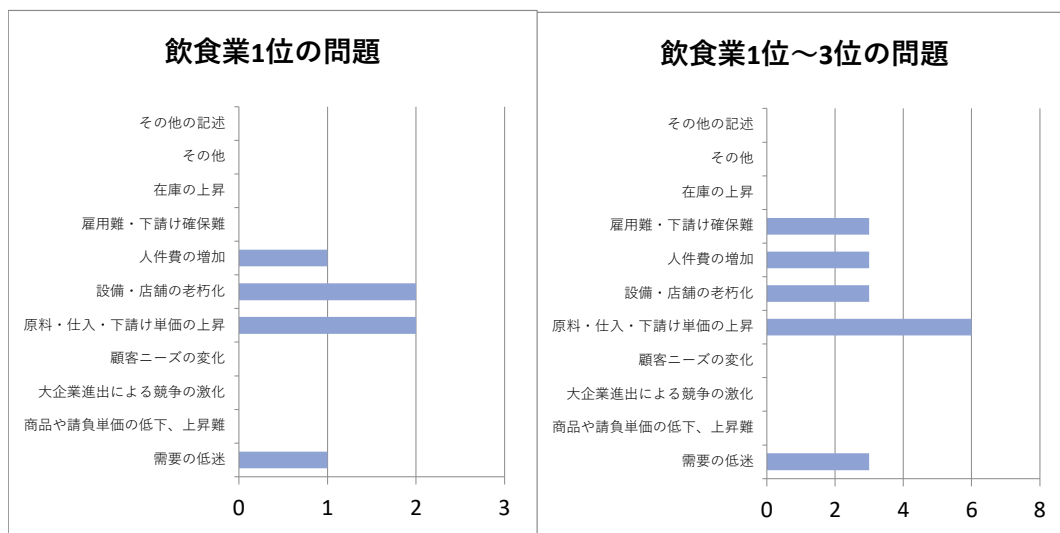
- ・ 建設業においては、従業員確保難と原材料の単価上昇が問題と挙げている。
全国的に見ても大きな問題となっている。



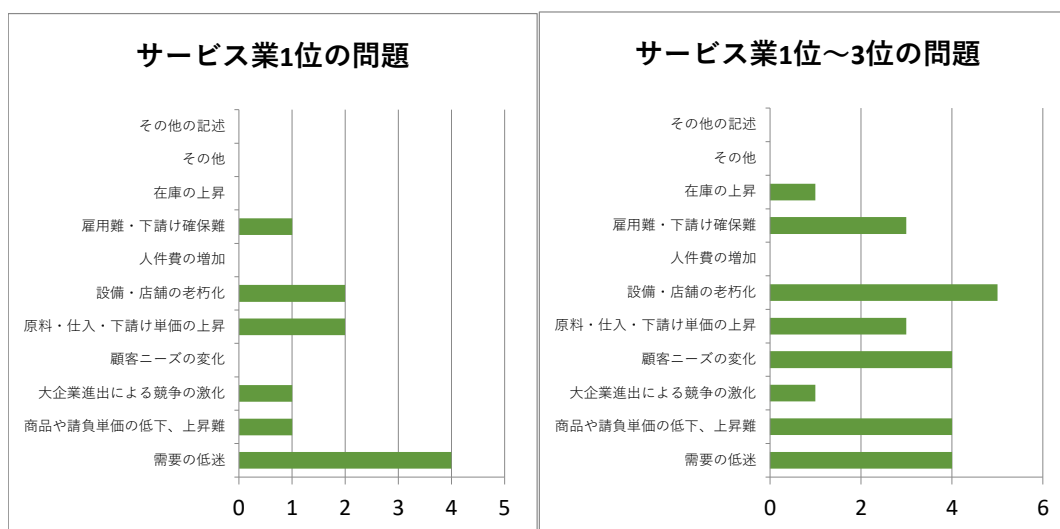
・卸売業においては、需要の低迷と商品の請負単価の低下・上昇難が第1位となっており、全国の傾向と一致している。



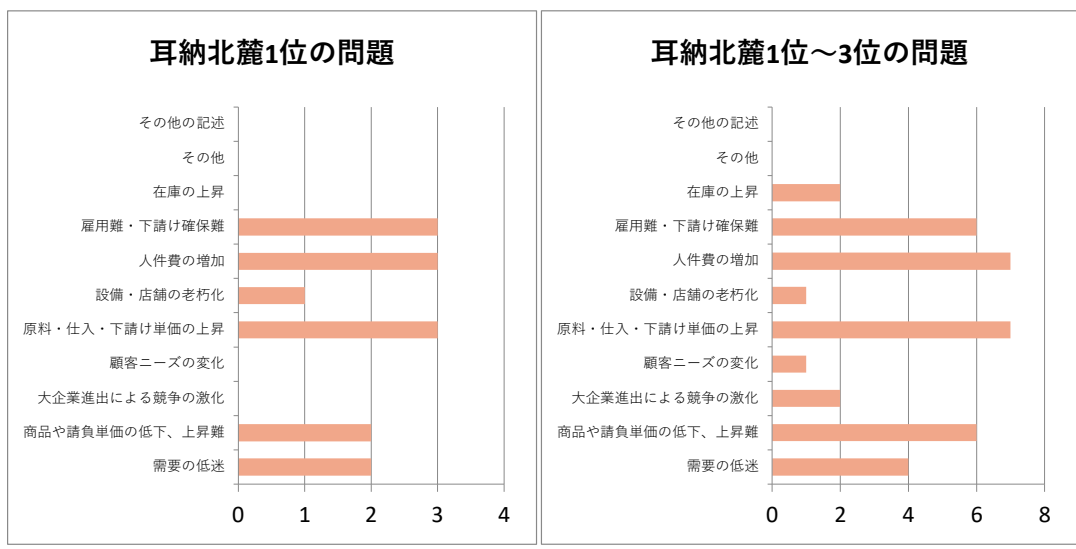
・小売業でも、需要の低迷が第1位であり、全国でも第2位である。また全国で第1位である大型店について挙げる事業所はなかった。



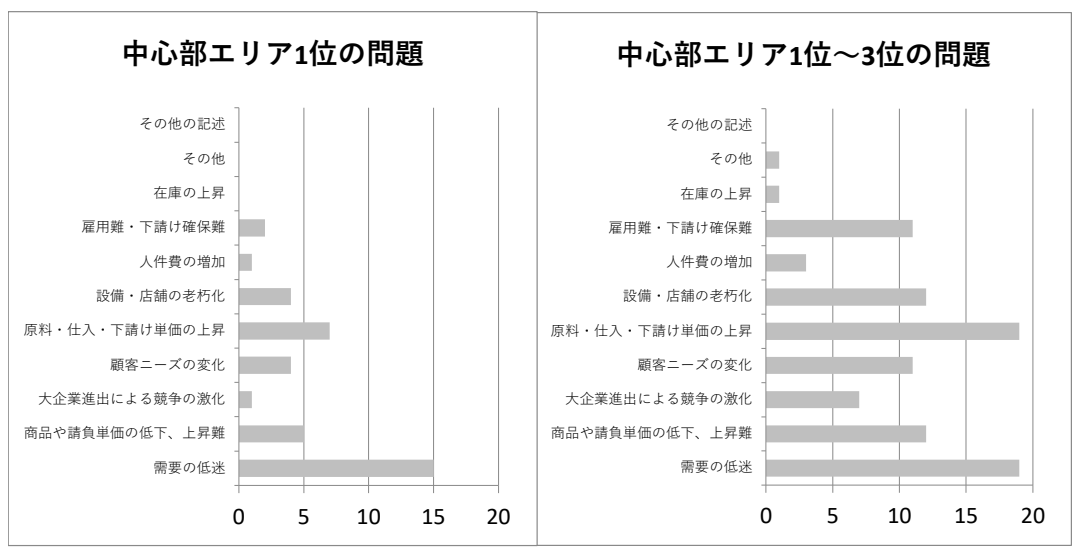
・ 飲食業では、仕入等の上昇が第1位であり、また店舗等の老朽化も問題となっている。



・ サービス業では、需要の低迷が第1位であり、店舗等の老朽化も多い。
全国で見ても需要の低迷等問題点が同じである。



- ・耳納北麓エリアでは、雇用難、原材料価格の上昇等が上位となっている。ほぼすべての問題をかかえている。



- ・中心部エリアでは、需要の低迷が第1位であり15件が回答している。顧客ニーズに合った店舗づくりが課題である。また、原材料等仕入価格の上昇等も問題点として大きいようである。

エリアごとに比較しても需要の低迷が多く回答された。
また、人件費、雇用等も問題となっている。
両エリアともほぼすべての問題をかかえている。